

貞丈雜記

三



73
6188
3



7 3
門 曾 林
別 6188
卷 3

貞丈雜記卷之三

小袖之部目錄

- 一 小袖と云事
- 一 かり筋之事
- 一 紅格子之事
- 一 紅梅之事
- 一 紅筋之事
- 一 腰おろしのえニテ
- 一 家之定紋
- 一 練縞之事ニテ
- 一 格子之事
- 一 牡丹みの事
- 一 ぬき白の事
- 一 ひと川まの事
- 一 小袖ぬき之事
- 一 織物之事

雜記三

目一



- 一 装束下乃小袖
- 一 八徳乃事
- 一 足袋之事
- 一 たゞの織物
- 一 あり川人ほむき
- 一 かけもえき
- 一 ありふ袖
- 一 無紋之小袖
- 一 せうふ油布
- 一 紅地白の事
- 一 胴服之事
- 一 羽織之事
- 一 御小袖と御服之事
- 一 嶋織物
- 一 加賀梅消
- 一 遠江あうぬ
- 一 丸すゞ
- 一 かしん色の事ニヶ条
- 一 たちぬの事
- 一 箔もやうの事

- 一 襟をあらはしる事
- 一 ニッ襟三ッ襟よ着は事
- 一 大ありよ着
- 一 木綿之事
- 一 板の物と云事
- 一 とのゐもの事
- 一 むしらの事
- 一 もくはき之事
- 一 女の帯古今相遠
- 一 幸むし乃事
- 一 五人をささ事
- 一 僧綱らぶ之事
- 一 ちうとんと云事
- 一 唐織物と唐織
- 一 婚禮葬禮の小袖
- 一 出物人々之事
- 一 蒲團之事ニヶ条
- 一 合羽之事
- 一 産衣之事
- 一 振袖留袖之事

- 一 下をカマ下り帯
- 一 肌乃帯
- 一 犢鼻禪之事
- 一 手綱乃事
- 一 あらそり染
- 一 白衣之事
- 一 頭巾之事
- 一 白かゞじの事
- 一 紋縫目付
- 一 目結の事

- 一 ぬんごり事
- 一 女のたふさぎの事
- 一 今木之事
- 一 取染之事
- 一 かたき事
- 一 染付小袖の事
- 一 ちやくし頭巾
- 一 袷目花色小袖
- 一 段金と云事
- 一 村濃之事

- 一 ちや濃の事
- 一 よめ君衣装之事 圖
- 一 筒袖之事
- 一 みどり色乃事
- 一 うす紫の事
- 一 ちりど色
- 一 真紅
- 一 いらこ形
- 一 腰巻之事
- 一 表之事

- 一 瀬瀬乃事
- 一 襦袢之事
- 一 滋目結之事
- 一 うれあゑの事
- 一 あけと云事
- 一 薄墨色
- 一 うちわけ乃事
- 一 小袖一重と云事
- 一 寶蓋
- 一 かつきの圖

- 一 腰卷之圖
- 一 天子御紋之事
- 一 ねり色袴
- 一 紙衣之事
- 一 家の紋と云事
- 一 ちんぎ色の事
- 一 鳴きり乃事
- 一 巻染之事
- 一 きむらぎと云事
- 一 小児綿入不着事
- 一 うらおき物
- 一 十九乃布
- 一 花の事 圖
- 一 袷大褂小褂衣袴 ウキオホウキオホウキオホウキ
- 一 あさぎ色二品ある事
- 一 ちり衣之事
- 一 帷子のつきかきと云
- 一 ちり色
- 一 奥布
- 一 上古結四品有事

- 一 袖がりの事
- 一 やまと帯之事
- 一 時服之事
- 一 望陀布
- 一 六丈細布
- 一 綿入衣服
- 一 赤鳥乃事 ■
- 一 摺の小袖
- 一 ちり色
- 一 大身かひり之事
- 一 素服乃事
- 一 宿衣之事
- 一 八丈絹
- 一 帖絹巻絹
- 一 袖あひ事
- 一 染色の事
- 一 小袖を丸物と云
- 一 無紋之小袖
- 一 かきり筋
- 一 紺くし

一 升頭巾

一 両くられおぬ筋

一 かいきりくと云事

一 ぬき白の事

一 目結鹿子

一 附帯之車

一 重陽小袖之車

一 紫裏之車

一 けりけり帷子

一 めと山

一 地赤地黒地白

一 すねとんの事

一 段乃物

一 朽葉色檜皮色

一 茶屋染之車

一 たすき乃車

一 木竹の小袖之車

烏帽子之部

一 古の烏帽子之車

一 縁塗乃車

一 風折糸ほり

一 平禮

一 梨子打 圖

一 柳さび 圖

一 上古の折烏帽子

一 小やむの車 圖

一 さぶの車 圖

一 立糸ほり 圖

一 糸ほりの眉共車 圖

一 軍陣もみ糸ほり

一 引立 圖

一 横さび 圖

一 今乃折糸ほり

一 てうほりけ之車

- 小ぢひの仕様 圖
- 小ぢひの仕掛の事
- 紫皮のあほりうけ
- てつうけうき 圖
- 長小結の事 ニヶ条圖
- 折烏帽子の時の装束之事
- ひくお寶色
- 細あほり 圖
- 横さひ折あほり 圖
- あほり針
- あほりの筒 事
- 一あほりの筒 事
- てつ掛と急須掛 事
- 赤革の烏帽子うけ
- 組ぢひの烏帽子うけ
- 折うけあかり
- 澁ぬりあほり
- 公方様御烏帽子
- 軍陣烏帽子 圖
- 引入あほり 事
- ふくろの烏帽子

- 長あほり
- 立あほり 名所
- 烏帽子あほり 事
- 立烏帽子恰好
- 長小結黒皆と云事
- 急須ぬり 事

以上

一小袖ぬきとさる古ハ殿中もあしもあり是ハ猿樂サルガクノ
能をさつせぶき酒宴あうば小袖をぬきて猿樂よと
さす事也

一家の定紋テウモシといふ物ハ本ハ旗幕ハタカあどと付る志あり也素
襖アツヒタレ垂垂小袖あとも一家此紋付事もあり外の紋付
事もあり委く装束の都又記す又条々書云ハ官振
御服ミフクとハ織物オリモノ色不定イロフシ白きあや又ハあなほむきを地を
色くみ條々御紋むきさあどと付れ也

一舊記キウキ又織物オリモノといハ紋うを織る也練舞ネリマシもううしあど
を織るハ織物オリモノといハ事ハ前記す又う織物オリモノといハ

唐カラ白小袖ト云
ハ平儀也

唐より渡りくる織物也う物とあゆむ事也

一装束の下は男オトコ子コの小袖の事条々書云大うびの付
考必白き小袖を男オトコ子コ一飾あど御成ミナト以ヨリ古コ更マシ云う
は打掛時ウチカケトキお物モノ名ナハハ又云云トク世ヨの下
のめいハ入イずズ小袖ハおオすスぢヂも不フ苦クハハおオすス条々書
書ハあ何ナニ一あヒトの時トキ無ム紋モンの小袖コウモリ思オモへヘすスのノ時トキのノ事コト
は用害記ヨウガイキ云イ裕ユクハ飾カズの裕ユクをヲハハ也ナリ又男オトコ此コノ事コトのノは
世ヨハハ也ナリ

白シロ二ニ胸ムネ服フクノ
一見ミエエタタリリ又マタタニニ
見ミエエタタリリ

一胸服ムネフクと云ハ今の羽織ハネオリノ事也胸ムネと云うトはハ格カクと云
のノ格カクハ胸服ムネフクと云也道服ミチフクとも書けりナリハあな

于健也足袋ノ如クニテ括ルル物也
 一ハ内裏へモ憚ラズハカクル也
 室町記云新制和仁七華被年餘五
 條以後可被鬼許
 雖未及此於
 病弊者蒙即免
 可用白紗或草
 下見タリ又足袋
 工撰撰付レモ有
 下見エテ御座所
 日記ニ竟正七年
 十二月廿二日序
 所撰ヨリ序足袋
 一被下文ツタ散
 世ニ也ト見エタ
 リ攸トハモヤウ
 ノ事也ヤハヤウ
 心政京都花附院
 押勢守貞國ノ
 西條藏メタリ其
 二小女ノ足袋
 ハキレテ見エタ

皮の足袋はるる一
武雜記卷
支書半同者
 十月朔日よりをき翌年の二
 月休日をあり但三月の事もさる事不苦い云
 貞丈云古ハ革足袋也今の木綿足袋古ハあハ八九十
 年計も以前迄ハ女も紫華の足袋をき世成時をき
 ち由古老乃物語一ける也

一 脚小袖といふ袖ありぬき此事也又脚服といふ常の小袖の事也
 之条は皮書あり小袖と脚服といふ差別あるを知る
 一 日記またぐ此織物とあるは練斐のうらうらこころいふ
 どの類を云ふ袖ありぬきの事前記云唐の織物と對し
 是乃織物と云用害記云くこの物り物の事脚免云



一 五南都法隆
 寺徒十ノ着ス
 二 大佛トテ黄色
 三 髪トテ用ル
 四 下アテハ毛
 五 唐製ニテ織ル

一 鳴おり物と旧記はあは諸方の鳴より織出物あり
 今もハ丈袖より織出ス也筋を織る物也
 貞丈云今織物の筋あはを鳴と云ハ鳴より織出物
 筋を織るは鳴と云あははは筋の事を鳴と云
 也
 一 不川今人法むきと云物旧記はあり此絹とも存又
 ちんとも北の方外園より出物ぬき脚成
 切古実云不川人の小袖の事懸別う物以懸別

村ハ下ハ勿論の
 幸天子出下召
 一ノ入りはわ
 衣冠の村ハ三位
 以上ハ二ツあり四
 位以下ハ一ツあり
 色類故退一ツあり
 トハイクツ着ル
 トモ上着ノエリ
 ニテ下ノエリヲ
 包ミテ一ツ着タル
 ヤウニ見セテキ
 ルヲ云也



ソウカウクビ

人ハ尾簪也と条々破書あり又諸國書条々物なき
 流る六十より内ハ五字を折てきくる也六十より外ハそ
 うろうよまきまき也とありそろうくびとハ小袖のあり
 を折てすしそまきまきの也あつて成爲は折きも也皆
 うろうハ僧綱也僧綱とハ僧の位也法橋添眼法印を
 僧綱と云位ある僧ハ五字とて衣とて衣のあり立
 て頭をうくす極りてある也小袖のありを折てすし
 て六すれハ僧綱の衣きある形乃とてあるあり
 うろうくびと云也
 一大ありとあるとハ小袖の着を廣くあけてある也

一女の小袖をむくく人と云物あり簾中旧記は四月六日
 たりと物ありは禊もよとて多ぬ物ありとて
 あつてとて多ぬ物ありとて多ぬ物ありとて
 禊りハ金銀の箔と繪極をさると縫をさると赤と裏
 付くる禊り事也

一木綿ハ桓武天皇北山時延暦十八年三河國ハ崑崙國ハ
 人ハ船よ乗て漂着たりとて船中ハ木綿の種あり
 を諸國ハ植てきくる由類聚國史ハありとて後中絶
 とて承祿年中つてハ異國より種を供へ来り今
 又徳すといハ蜷川記ハ人ぬ袴のあり馬具寸法

木綿ハ二木並内
 大目ノ款ニ
 ありとて多やぬ
 もハハありぬ
 り人のうくく
 ありとて多いた
 えり
 是木綿をよめ
 故也木綿の種乃
 ありとて多やぬ
 あり

記も人のあまういのうの本綿と書ても人の
む也つむ五音^{ツバ}通す。加古い人のむ^ム云ひ也

か織物かかおま^{ラントンスレユスアヤミキ}別也か織物をか物^ラ云也金
補^{ラントンスレユスアヤミキ}子縹子綾錦^ラと外^ラま^ラて^ラ唐^ラの^ラ渡^ラる^ラ物^ラは^ラ皆^ラ織物

也か織日^ラの^ラ織^ラ也地^ラの^ラ生^ラ糸^ラを^ラ紋^ラの^ラ五^ラ色^ラの^ラ祈^ラり^ラ糸
金糸^ラ等^ラを^ラま^ラして^ラ織^ラは^ラあ^ラる^ラ物^ラ也唐^ラの^ラま^ラる^ラ織物^ラを

か^ラり^ラか^ラり^ラと^ラ云^ラ也

の物と云ハ巻物^ラと^ラ付^ラく^ラ云^ラ名^ラ也織物を巻^ラる^ラを^ラ巻^ラ物^ラ
と云^ラま^ラん^ラは^ラす^ラ板^ラを^ラ入^ラり^ラか^ラく^ラた^ラる^ラ板^ラの^ラ物^ラと^ラ云

也武雜記^ラの^ラ昔^ラの^ラどん^ラま^ラの^ラま^ラい^ラで^ラあ^ラる^ラと^ラ云^ラま^ラん^ラ今^ラの

巻^ラ人^ラす^ラま^ラい^ラと^ラあり^ラま^ラん^ラす^ラも^ラ上^ラ古^ラの^ラ板^ラの^ラ物^ラあり^ラし^ラは
ま^ラ巻^ラ物^ラは^ラあり^ラし^ラも^ラま^ラい^ラた^ラる^ラ板^ラを^ラ入^ラり^ラま^ラい^ラく
ま^ラる^ラも^ラい^ラ何^ラも^ラも^ラ板^ラの^ラ物^ラを^ラま^ラい^ラく^ラま^ラお^ラり^ラ出^ラり^ラ板^ラの^ラ物^ラ
と^ラ云^ラる^ラ織^ラの^ラま^ラい^ラを^ラ板^ラの^ラ物^ラと^ラ呼^ラぶ^ラま^ラい^ラく^ラま^ラお^ラり^ラ出^ラり^ラ板^ラの^ラ物^ラ
板^ラと^ラ云^ラる^ラも^ラう^ラす^ラま^ラい^ラの^ラ物^ラあり^ラま^ラい^ラく^ラま^ラお^ラり^ラ出^ラり^ラ板^ラの^ラ物^ラと^ラ云^ラま^ラん^ラあ^ラる^ラか^ラら
織^ラの^ラ厚^ラさ^ラと^ラう^ラす^ラま^ラい^ラく^ラま^ラお^ラり^ラ出^ラり^ラ板^ラの^ラ物^ラと^ラ云^ラま^ラん^ラあ^ラる^ラか^ラら

珠川記^ラの^ラま^ラい^ラく^ラま^ラお^ラり^ラ出^ラり^ラ板^ラの^ラ物^ラ
板^ラと^ラ云^ラる^ラも^ラう^ラす^ラま^ラい^ラく^ラま^ラお^ラり^ラ出^ラり^ラ板^ラの^ラ物^ラと^ラ云^ラま^ラん^ラあ^ラる^ラか^ラら

一婚^ラ禮^ラは^ラ白^ラと^ラ小^ラ油^ラを^ラ用^ラひ^ラま^ラる^ラ事^ラ葬^ラ禮^ラの^ラ禁^ラひ^ラ也^ラ今^ラ世^ラは^ラい^ラふ
人^ラあり^ラま^ラあ^ラや^ラま^ラり^ラ也^ラ葬^ラれ^ラる^ラ白^ラ色^ラを^ラ用^ラひ^ラま^ラる^ラ時^ラ
あ^ラる^ラ美^ラ麗^ラ彩^ラ色^ラを^ラも^ラと^ラあ^ラず^ラ物^ラを^ラう^ラけ^ラる^ラを^ラ不^ラ意^ラと^ラす
い^ラれ^ラ也^ラ婚^ラれ^ラる^ラ白^ラ色^ラを^ラ用^ラひ^ラま^ラる^ラ婚^ラれ^ラる^ラ人^ラ倫^ラの^ラ大^ラ女^ラ白^ラ色^ラを^ラ用^ラひ^ラま^ラる^ラ

白色の大巾也故は白色を用ふ也用ふは白色不同
と云ふも不意の同くもさる也又産の村白色用ふ也
も婚禮の同

このみと云ふは今の夜具のゆ也又杉入も云ふ也この
お物に油の下に油のあり女の服は七寸のふきを付る也
婚入記はあり名合へ後房は武雜記の貞丈抄記也也

このお物の袋は入る也
これにこのお物の袋は
お物入も云ふはしぬも此事也帯の小袷の形ありゆ也
けをいさくす也このお物の一名を物入も云ふこのお物
はしぬも云ふはしぬも此事也

このお物の袋は入る也
これにこのお物の袋は
お物入も云ふはしぬも此事也
けをいさくす也このお物の一名を物入も云ふこのお物
はしぬも云ふはしぬも此事也

今世の夜具の内は蒲團と云物あり古くはと云ふ也
蒲團と云ハ産産の事也と云ふのゆを云ふと云ふハ
今世の夜具の内は蒲團と云物あり古くはと云ふ也
貞丈抄記スハハ衣敷と云ふはと云ふの物と云ふハ
今世の夜具の内は蒲團と云物あり古くはと云ふ也
蒲團と云ハ産産の事也と云ふのゆを云ふと云ふハ

んぞ...云物古いた川あとも 義貞記曾我物語 まじりおびし

也唐韻又松小禪也 盛衰記ニテリ前ニ記ス 又俗ニ云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

也唐韻又松小禪也 義貞記曾我物語 云物也皆云物也

紫式部日記云
ゆりのハ華おの
通ハハハハハハハ

字成用する也

一 今本と湯巻と同物也 イトエ音相通故ユマキヲイマキトナリ大江山ヘユ

東鑑卷四十一建長四年 子四月一日ノ条ニ湯小袖十

具御大口一ツ唐織物御衣一領御朋衣一ツ 今本一ツ下畧 又榮花

物語 初花ノ巻寛弘五年九月十日中京 云湯ゆどの酉の時とある

女房も白き装束もあつてゆゆのり シマキと云ふ

同一本也 恒例毎日 早旦供湯湯至殿官人奉行

釜殿運湯 中畧 凡禁中着湯卷上臈一人典侍一人也

是候御湯殿故也 ユレトヒ 壺井義知力校正ノ禁秘抄ニ湯卷

傍ニ白生衣ト注シタリ 貞丈云天子御湯ヲ召ス時上臈一人典侍一人供侍一人

一 善記乃中小子綱と云事あり馬の子儀の事あり あは

た たふささハ今 衣服の款は あは 綱とある

き タ 綱と云事 カ 體源抄と云書 樂人豊原 義家

朝臣の鑑名の次方を記 シ 綱と云事 カ 體源抄と云書 樂人豊原 義家

織機記ニ法師
くらしき事ニハ
ききされハ
つらしき事ニ
あひしき事ニ
つらしき事ニ
あひしき事ニ
つらしき事ニ
あひしき事ニ

大いばきん
一物と利装の
のうり物也カ
書利装の若也

自丈様方より
本ハ機若の服
すしき人のき
物よあしされ
装の果氣はす
一のきぬあし
あひしき事ニ
つらしき事ニ
あひしき事ニ

中意あき世服用也同保付と文をあき深る小袖を
忌也今月中忌文と云ふ事あり小袖を今小紋と云ふ
の也藍あき深る小紋の小袖の事也

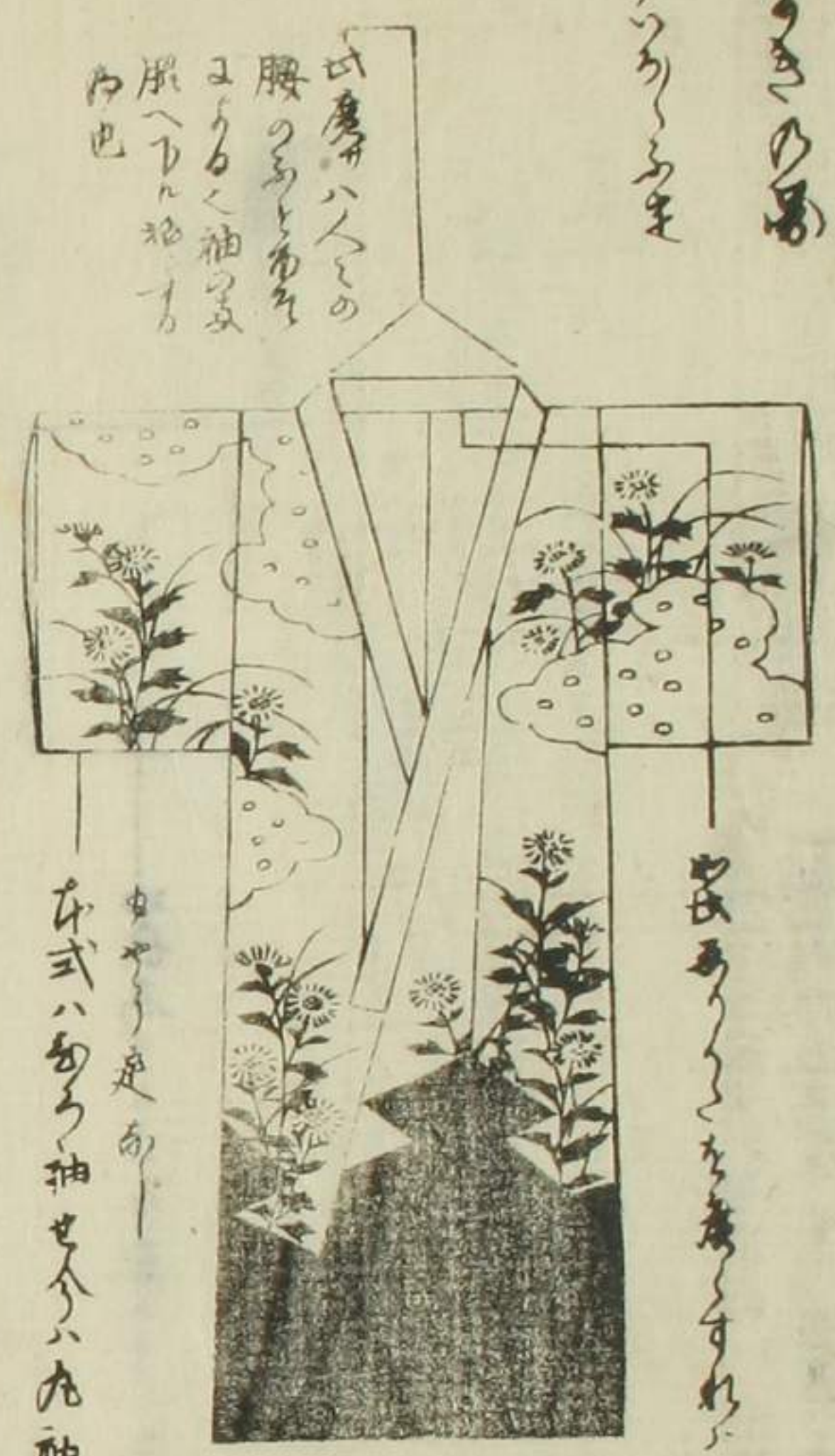
一 浅き人の事藤川家云頭巾は免はる川きひの色あき定り
ゆつしき事頭巾は形め向をあきすの古何事あり
あきしき事物あきれ頭巾も今の世乃すし頭巾あり
を用ひし事也

一 あぢやう浅き人の判装者のかぶる頭巾也源平盛衰記太
夫坊覺明ハ首丁頭巾ありあけの禮を免ふ又首丁頭巾腹
巻あきりあんどあり又平家物装土佐坊昌俊黒華

禮あき首丁頭巾を免ふありあけ鎌倉年中行事成氏の御陣
の事を記し御力者或ハ十人或ハ八人又ハ六人何れも出長頭巾
と黒布あきりあんどありあけ中一不ありあけ
るあきりあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけ
夏首丁頭巾も出張頭巾も同物也又頭長頭巾も書也出陣
乃時あきりあけ物ありあけあけあけあけあけあけあけ

一 今世世七月七月八月朔白七月十五日の白くこの事を
事のあきりあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけ
宗五大双紙
外日記
右云わくあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけ
五月五日の白くあけあけあけあけあけあけあけあけあけ

一、まきもの
まきもの



巾着の袋
巾着の袋
巾着の袋
巾着の袋
巾着の袋
巾着の袋
巾着の袋
巾着の袋
巾着の袋
巾着の袋

一、うちをきの物と云はれんをうけおつる一、ある物也婚入を
記よるるるるる

一天子の御紋と云事上方より事也源平の合戦の比と
至陽幕の菊桐の御紋を付始と事一、あるは飲菊桐の

實録
中二十九日
五月五日
下ツキ
六月十日
裁後十日
云々
九サ
クハ
ナト

元来ハ御装束の織紋ありそれを武家此是紋の如御幕は
白何れも付け用ひしれ一、黄櫨染ト云御装束ハ桐
竹鳳凰麒麟の織紋あり赤色ト云御装束ハ桐竹の織紋
あり一、何れ又窠中ハ葉の菊同菊ハ草の織紋あり
凡人ハ紋ヲ道具のおろひあど付ルハ人の物ヨリこれれ天子の御物ハまさる
一十九布ト云事旧記ヨリ有テ袋ト云する布之様を識者ハ
詞系ハ筋を一カ糸ト云長サハ一疋の糸ト云
一、七ツの布ト云ハ七ツの糸ト云織るを云一幅の徑系式
るハ拾筋ニまじり立る十筋布ト云ハ十筋の糸ト云織る
を云一幅の徑系式筋ニまじり立る十九の布ト云十九の

東海神事の時
白布は山あみの
色を打きせし
物あり

奥州信太郡
の石の面を
打きせし
物あり

色を打くは、その色よくあり、その色をぬくみ、その色よく也。

一、すり衣コロモの事あり、おもち、花成り衣あり、歌あり、そのあり

是、六板は草木花鳥あり、其形を周刻ユリキして、印光のり、板布は

色よく、その布あり、その上を打て、その付る、綿布のま、その

あり、ぬ為也、そのりをあ、その付る、その上、布又、綿あり、

をり、そのよくあり、つら、そのあり、そのあり、そのあり、

藍アイは葉又、ハ色の花を銘メイく、その布は色よく、綿あり、

面を摺スるは、その花の結あり、その也。

一、鳴すりの虫盛衰記卷五小松 教訓の命ありと云、ハ鳴、其洲スの形を前、其

め、すり、そのを、その也。
今時節をぬく、そのを、そのあり、そのあり、

一、つら、そのあり、そのあり、そのあり、そのあり、

何、曾我物語卷九兄弟 小五ノ条十、肩が、その夜の出、そのあり、

ひ、そのあり、そのあり、そのあり、そのあり、

ど、肩より、け、そのあり、そのあり、そのあり、

ら、そのあり、そのあり、そのあり、そのあり、

多、そのあり、そのあり、そのあり、そのあり、

海、そのあり、そのあり、そのあり、そのあり、

の、つら、そのあり、そのあり、そのあり、そのあり、

能、帷子の服、そのあり、そのあり、そのあり、そのあり、

虫、虫の、そのあり、そのあり、そのあり、そのあり、

一 海老の素襖あぶのめく左右の服をぬいずあけてあはる也
 うきあるハ瀬入る也あつせのときうきうきと云ふも大い
 りよ裏を打ちつる也大いこむに糸車や装束の部記
 一 海老の素襖と云ハ防あても布多てもうきうきと云ふも大いこむに糸車や装束の部記
 諸あつこくきく何色あても深き後巻つる儲をこけは
 うきあるハ瀬入る也大いこむに糸車や装束の部記
 夫木抄の家集藤花源仲正の歌、為依のよきもねぬ
 むきさきつれまきこき多きある松うきを名添云、比袂の公
 の所が松よのねてまき付き花さきこくも袂が氣の巻を
 免の衣をまきこくも袂が氣の巻也

一 ゆき一 色と云ハ紅の色を云也深紅と云ハ紅の色を云也深
 く黒くありくもハ林の色也林の色と云ハ平人の思ふゆきを林
 割せしむ也と云ハ林の色を云也深紅と云ハ紅の色を云也深
 くも云也と云ハ思ふゆきをゆきと云ハゆきなり
 夫木抄の歌久安百首有芳門院ノ安藝山をせよ
 流しハ保保ぬみくぬきうけゆき一色を云也
 山をせよハ山の色を云也と云ハ春の節の名也
 了の紅の紅を云也ぬみくぬきうけゆき一色を云也と云ハ春の節の名也
 一 きり上ハ芳色中ハ紫下ハ緑色を云也と云ハ芳色を云也
 三ッ引上ハ芳色中ハ紫下ハ緑色を云也と云ハ芳色を云也
 緑と云也 緑を云ハ、云事 緑屋ヲ
 コウヤト云ハ、例あり

一奥布ヲフシと云布上古あり也奥州アヲシカより出づる物歟ツミヒラフ詳あり

す東鑑トウカンふあり見えあり鎌倉時代リョウカウより行りべその後
綴ツヅくあり夫木抄フキシヨ子光俊朝臣ミツトシの袂タビ今も世にあり也

其ソノあはれくぬのヌノもちのモチねネふむムありとる

一古コ小コ思シハハ早ハヤクク綿ワタ入イのノ小コ袖スリーブををぶぶああせせざざううりり也也小コ思シハハ身ミ

此コノ温ユキ氣キ強ツヨきキ也也東鑑トウカン卷マキ二十四ニジュウヨシ云イハレ仁治ニジ二ニ年ネン十一ユエ

奥時ノ事飲食ノ
事ニアリ又祝儀
ノ事ニアリ

月ツキ廿ニ一ヒト 今日コノヒ將軍シヤウケン家ケ若ニハ君キミ御ミ前マヘ御ミ着キ袴ハカマ魚イサ味アジ也也其ソノ後ノチ着キ始ハジメ

縣ケン衣イ給タマフ綿ワタ入イをを思シ 右ノ君君ハ將軍頼経公の御嫡子頼嗣公也延應二
年十一月廿一日誕生也三歳ニテ着袴ノ祝アリ也

其時ソノトキ近チカ綿ワタ入イ用イうウりリ也

歷任記寛仁
六月廿七日ノ記
長一足綴
二足

一上古コノハハ綿ワタハハ四シ品ヒンあり長チカ綿ワタ平ヘイ綿ワタ細サイ綿ワタ簾セン綿ワタ是シ也也以ヨリ之ノ惠ヱ余ガ

院僧正インソウジョウ宣ノボ守モリ此コノ書カキをを海ウミ人ヒト藻モ苾ヒとト云イハレ書カキをを久キウくクうウりリ長チカ綿ワタのノ

直チキ垂チ明メイ徳トク記キ求モト名ナ長チカ綿ワタのノ狩カ衣イ 古今コノ著シヤク固コ長チカ綿ワタのノ衣イ 傳デン衣イ也也太タイ平ヘイ記キ也也此コノ書カキ皆カ

長チカ綿ワタハハ綿ワタをを綴ツヅくクるルあり長チカ綿ワタ二十ニジュウ足ソク長チカ綿ワタ二十ニジュウ

足ソクあり東鑑トウカンの中ナカにニありアリ也也古事コト抄シヨウ卷マキ二ニモモ長チカ綿ワタ二十ニジュウ足ソク
経キヤウ之ノ許ヨリへヘ送オウ遣テントト見ミタリ

一袖スリーブ布フをを此コノ事コト装カサネ束ス乃ハ部ベにニ記キす

一素服ソフクの事コト後ノチとトるルものモノのノ凶事キョウジの部ベにニ記キす

一懐妊クハイン乃ハ婦人フジンの腰ウシ帯オビををゆユきキ帯オビとト云イハレ祝イハヒ儀ギにニ部ベにニ記キす

一宿衣シヨクイトト云イハレ衣冠イカンの事コト也也禁私抄キンシシヨウ上ウヘ御膳事ミテウヂノコトノ篇マキニニ宿衣シヨクイト

アルニ壺井義和傍注ニ衣冠ノ変也ト見タリ

延喜式縫殿寮式云新嘗會御服中畧望陀布二條○和名抄卷十

二類望陀布今按本朝式有庸布調布調布讀豆岐乃沼

能又有信濃望陀等名望陀者上總國郡名也其躰與他國調布頗別異故以所出國郡名爲名也

一帖絹タハヒナスマキキス卷絹の事平らたつゝるを帖絹と云れくまゝつゝるを卷物と云ぬり

一六丈細布と云ハ二疋の長サ六丈あり〜小や今昔物語卷二十二 觀現上人在格

の村盜賊を助けて門乃服カワラは皮子を二ツあがらぬ入てぬら

きゝゝふ一ツふハ文の綾十疋黄八丈十疋綿百兩入れり

今一ツふハ白き六丈の細布十疋紺布十疋入ぬり云

一賤き者カはカ袖あり〜と云物を古く多あり〜云袖ハ衣乃き

あれハ多あり〜と云也古今著聞集卷二十 魚獸ノ部下臈の處るてりし

と云布カ物カをカ謙を腰カと云〜とあり益をあんきと

まゝは

一綿入ワタの衣字拾遺卷一 方十八 余す〜のきぬ二汁又云袖り

色のきぬの綿あつ〜あるニツ云増鏡 卷五 文永三年 四月蓮華王院

供養御幸あり中畧人あまひ三輛ハ 女房の車と云入〜る

衣也キヌ御車ミマありは〜お川カぬ〜る上臈カ〜人カや

袷アサギの五ツ衣オモ 貞丈云是ハ着タルニアラスウキイデトテ車ノ簾外ヘカサリニ見セテ出スナリ

一 染色御車装束の部カありカ念カ念カす〜

寸法雜々云馬ノ
アカトリ寸法ノ
車二尺一寸ニ布
二尺也又五尺
二寸ニモ布二尺
ナリイワレモ緒
ハ二所ニ付ル也

追記アカトリハ
女ノ馬ニ乗ル
鞍ノ上ニ打オホ
コテ乗ル打シキ
也
續武家閑談ニ泉
タリ其文別ニ記
ス按赤鳥ノ措リ
字ニテ突ハ赤岳
ナルヘシ赤キ箱
ヲ鞍ノ上ヨリ垂
レオホウ也

一あつらひ事女の服也傳来の伝子ハ汗衫カサミ 装束のの事也

いひ傳へて世にささるるをあつらひと云ひ其装束物ともに見

えざれを身につくあつらひ不用く婚入カサミの記家傳ノ古あり

あつらひ長さ八尺式寸すき二七尺二寸と云ふとあり

詳ある事ハ知せず難太平記今川貞良世ノ記故殿今川上保光思案カサミシ

給ヒケルニ赤鳥ヲ馬ニ付ハヤトテ其後俄ニ付ラレキ右青野カ

見 又云駿河國桑數十ヶ所ノ所領ハ此後詰ノ恩賞也國

入部シ給ヒシ時我等少年ノ初ニテ供シテ富士浅間ノ宮

ニ神拜ノ時神女託シテ云ク遠江國近シテ吾氏子ニ欲力

リシカバ赤坂ノ軍ノ時我告シ事ハ知哉ト云リ入道殿貞世ノ文

ヲ退テ何事ニカ候シケレ覺悟セズト申し給ヒシカバ益々懺

ノ事ヲ案セシ時我赤鳥ヲ賜シ故ニ勝事ヲ得此國ヲ賜

ヒキト託宣セシカバ故殿其時思合セテ女ノ具ハ軍ニ思

事ツカシ争思寄ケン誠ニ神ノ御謀ト信ヲ取り給ヒシヨ

リ以来我等モ子孫モ必ず此赤鳥ヲ可用ト仰ラシキ右富

間神女託宣ノ条ニ見タリ 右ニ女ノ具ト云ハ赤鳥を云フ一云也右ニ引

くる婚入ノ記ニ云クニハト云ハ播磨ノ女ノ衣服ト云

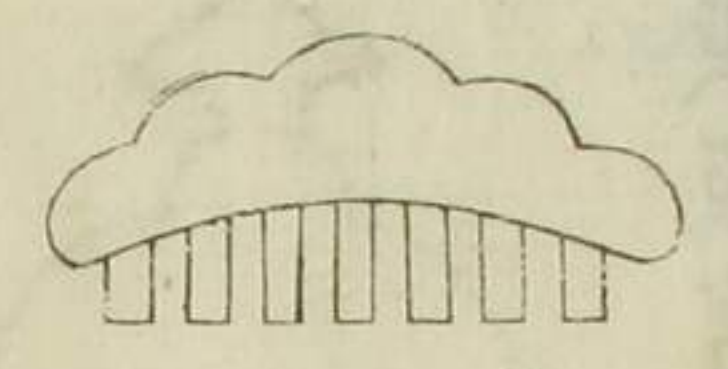
ハ云々云々其形いふある物ト云云云守播磨の女ハ

久々追記云々

光大云赤鳥トハ假字ト云テ垢取ハ字也垢取トハ

○是等此圖を名を其とて然らざる今此世柳拂クシハラヒと云
 物と古の物と形大に異なり故先人修字の赤多、然
 して種々の説をありしなり云々

○東條西尾乃西家、今川家の余裔あり、柳松クシマツと云もの
 を紋に付てもありしものかとの違ひしりもあらん也



柳松ノ圖
 西尾 東條
 両家之紋也

右を赤鳥考の抜書也猶ありし事、如書に附く見

也

一 小袖を丸物とし、草草履丸物あり、伊勢常真記云丸物と扇
 と太刀の方へ一度は流し先小袖の上は扇を並べ、後太
 刀は出しか也又云丸物と袴と太刀の方へ一度は流し先
 小袖の上は袴を並べ、後太刀を出す也云々

一 摺の小袖の草、貞順翁文書に云、小袖の草、依之、膝
 十四五迄、草摺の袴と名え、つりまんの小袖と、縁の表藍
 又ハ色々の花あり、草摺をすり、多あり、すり、本形、草
 木花鳥の形をすり、みたま、本形の上、縁をのせ、藍

草摺の草、依之、膝
 十五、草摺の袴と名え、つりまんの小袖と、縁の表藍
 又ハ色々の花あり、草摺をすり、多あり、すり、本形、草
 木花鳥の形をすり、みたま、本形の上、縁をのせ、藍

實験約文書ニ云
 カタシカハリノ
 袴ノ一是モ十四
 五マテノ一ニ
 犬進物方関書云
 文明九年八月
 方所所極初日
 並番に身勢子
 方紅馬をモ正キ
 被有ニ引兩ノ脚
 決云

言れはとありかゝりありすゞとハ紅を細く横糸すゞと
 深ある也地を紅と染るゝあゝ筋を紅と染るゝ紅
 寄筋と云あり古ハと云事ありと云ハあり取
 染乃同あり

一 大おがりの袴 貞孝春書曰大おがりの袴 晴の時ハ
 別の色は片身は袖をへる也土佐光茂の繪がきハ大
 進物の繪も外流の人の素袍は片方浅黄あり片は紫ある
 を思ふ物足る重りは大おがりをあぞハ若き人の思ふ
 漆物と見ゆ

一 紺くろハ紺のくろハ深ありくろハ深と云今世云志
 あり深也紺ありののみあり

一 赤頭巾 赤頭巾の事 常照愚草云頭巾赤ありハ
 又赤頭巾同也也多と云はる
 又赤頭巾同也也多と云はる
 又赤頭巾同也也多と云はる
 又赤頭巾同也也多と云はる

一 入道仕のときハ頭巾益頭巾可用ありあり
 八九くろハくろハ中あり 鱧の頭の丸きハ似ハ

上野國新田山ノ
迎ヨリ出ル宿十
ルヘレ仕立侶ト
去モ同シ物ナレ
ヘキ

あづきんと云ある處一井頭中と云四角をくくく頭中
四角ある形等をばくく形を似くくをくく名つけくく
蓋の字ハ假字あり

一 かく山きぬあま山はむぎ能事室町殿日記云脚小袖物
てあまや何あてもくきもんくくぬあま山の上かんあ脚
白小袖物もてくくあま山つあまの上かんあてあて按あま
山と云地名をくくく各付くくや又ハ地合のあまくくくく
ゆくくあま山と云今世八丈川むぎあま山八丈と云あり
八丈嶋よりくくく品をくく他國より織くくを云也あま山と云
天文の比ハ俗稱より進くくある處をくく

女房内ノ記云女
房帷子ヲ色クニ
染テ着ル俗一也

一 両ら世あるすぢくくくくれあまあま乃の脚對面ノ記
云あまれあまあま八十九進をあまあまくくくくあまあま
二十ありすぢくくくあまぬ物もてくくくくあまあまくくく
くくあまあま地色何あてくく紅乃筋を織くくを云あま
れあまあま地色何あてくく紅の筋を横多てせよあり
海也くくくく重あまあま地色何あてくく紅の横筋計
織くくを云くくくくれあまあまを一名くくあますぢくく
もくくあり

一 地赤地黒地白地帷子ノ事簾中旧記云六月一日あま
あてくくくくあまあまくくくく又七月一日何まあま

ありきあ人ぢしうありきいしう云々何うもあてると
 云々地赤紅のうしうふらゆゆ挿振小紋あをを染くるを
 云也ららきあてると地黒のうたのしうゆゆ挿振小紋
 あをを染くるを云々んぢしうゆゆ挿振小紋あをを染くる
 地黒のうしうふらゆゆ挿振小紋あをを染くる云也
 一 小袖惟子あとの事を記せし中よりいさうりと云事あり
 のいさうりとハ肩とすそ事あり
 一 寸布あての事貞孝朝臣相傳云々云々あてんとハぬ
 ぎぬきあてるといさうをい裏をつげぬまやうと云
 に入しすよあてぬとも又あてちぬあてちぬと云

女房衣裳次
 去柳色トハ堅
 をもえ色トハ堅
 横をのあてぬ
 中ハ

あてぬい裏を押しあてるとんおをて白く裏いふあも
 ありぬいの色こりくと深紅裏まハありと云いハつきい
 ちすいあてぬとあてぬとも深紅とつきいあり
 一 ぬきぬき事前記せしぬき白とハ別也享保三年ハ
 月上原殿聞書云ぬき白と云今程の柳色也猶ナリ
 青く白く云々此ぬきぬハ御的の紺装束ぬき也然れ
 とも女房はあてぬき白何んか部子記す也前のぬ
 き白と混すべし

引両ハ肩ノ通ニ
 二ツノミアルヲ云
 フナリ

一段の物の事練習あり肩よりすそ迄横筋を一寸余のそ
 ばは織る也地黒に筋ハ白く

黒くはうと云人の能色あり
 如玉お梅と云物と女房の実際

々云々人々... 記云十二月

一 目結鹿子事一物は即す伊勢貞順豹文書二品は只云々

目結 俗ニ鹿ノ子ト云テ如クナルヲナラヘテ深
タル也惣体ニ深ル之今ノ行致アラレノ如シ 鹿子 俗ニ云カノコノ如クシテ所
ニ千ラレ深タル也又トヘバ

共ニク、レ深あせとも 杖尾別あ

一 朽葉色捨皮色此事貞順女房衣装次方云朽葉色と云

堅を赤く染了栲を黄く染了る糸も織り捨皮色と云

堅は浅黄く染了栲を赤糸も織り多るをい

一 附帯の事貞順請取渡次方云附帯云女房内に記云今

日より女房上下帷子を色々に染了る附帯也是ノ

事ハ洞中乃以沙汰也俗地白帷子さげ帯と云也共

今世ニハカイド
リ下ノ帯地ク
シユスニヌヒ
ル帯ツケヲト
云是物イツノ
ヨリ始リタル

天文永録元龜に比の書也さげ帯は名ハ附帯と云也

一 茶屋染之事若此あり手摸拵あり多くと云我兄も久

くありぬ任吉此岩の懸松哉世経ぬんと云お歌繪

あせば我兄も久くありぬと云字を繼て任吉の社の

ていを画き深窓の懸松と云字を繼て松を画き染るる候

候一茶屋過と云るにうたをい画き染るるあり

ともよ何れもやうあり

一 深小袖重陽は用事若も記す如室町殿の比花色深

小袖を必用と云起も詳ありすされ酌并記一本は

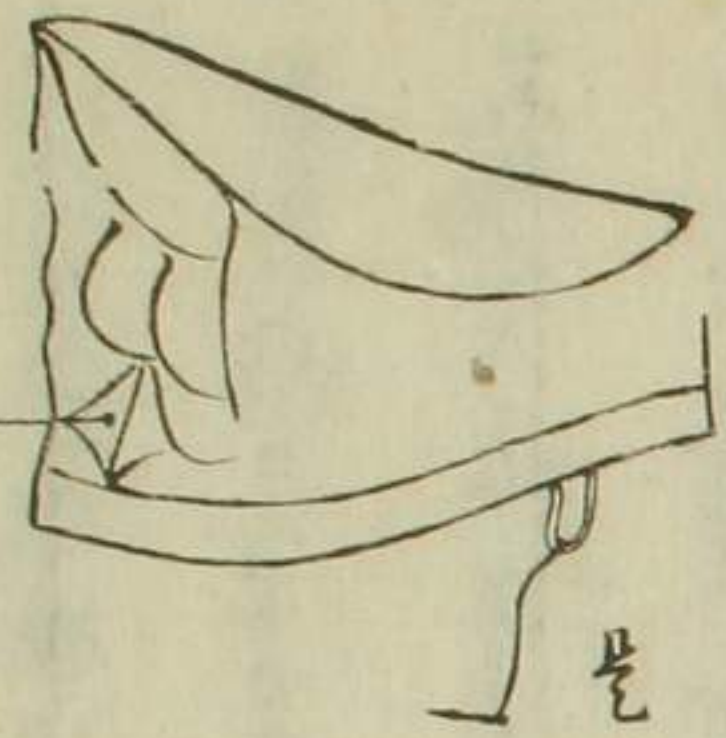
藍染小袖ハ九月九日トアリ蜷川記に深小袖の時分の

清閑寺大納言
房卿説云九月九
日ハ花色ノ小
袖ヲ着スヲ翁物
トナスヨシ是陽
ノ色ハ青キヲ

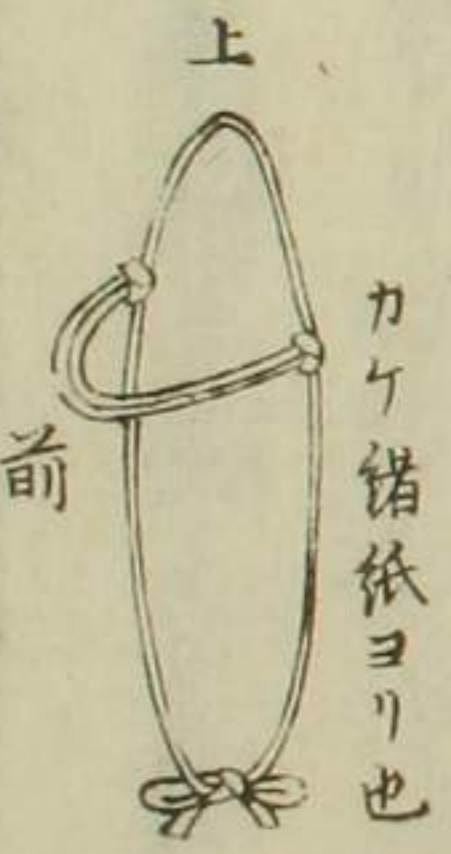
皇太后西三條紫
 東掖二右眉五眉
 諸眉小諸眉ノ名
 見タリ彼叔ハ道
 通院実隆公ノ作
 也又故実清譚ニ
 諸腋小諸額古ヒ
 リノ名見タリ彼
 叔ハ三光院実隆
 公ノ作也道通院
 ハ三光院ノ祖父
 也時代速カラズ
 然レハ眉ト云ハ
 ト云上リト云ハ
 通称ニテ新古ノ
 差別アルヘカラ
 ズ

一今時の五毛が〜風折あ〜
 み〜もあ〜左眉右眉諸眉片眉小諸眉と云品あり是ら
 多〜片眉の中〜
 也両方又何々諸眉也片眉内〜左の方あるハ左
 眉也右方方にあるハ右眉也諸眉の内〜
 云又ハ左上り右あ〜
 野々宮宰相定基卿の説あり〜

此〜
 比〜
 比〜
 比〜



此〜眉を〜左なり片方〜



カケ諸依ヨリ也

甲州高坂彈正傳
未モし立ホシ形
帶ノ立馬帽子ノ
如クニテ地ハ積
考ヘリハ馬皮ノ
由ヘリノ真中ヨ
リハ千マキ引通
シ立ホレノ後ニ
ナ格ト云ヘリ

多るあるが、のあの中不存の之品、今も昔はやくやく
作らぬともみあはるるなり也
古代ハ漆やりの威風凛々也後ヨリ
ぬりくぬりく物出来たりやりのぬ

をもし
がりと云

一 梨子打^{ナシウチ}あはるる云ハ梨子の字ハ字を假り用ひたる近き

木の實の梨子の義ハあはるる事也あはるる云ハあや

し打の畧語也あやハあはるるを云打ハ作の事あり

やうくも作らるる事あり愚昧記^{仁安三}曰永元三

年十二月廿五日東宮御元服昔人衣服打梨^{ナシウチ}今人装束如木

又明月記^{定家卿ノ記}ニ正治二年八月十六日^{中略}騎馬候供奉^{布衣打}梨子^{梨子}又

公敏卿記^{又保二年二月廿一日ノ記}ニ此直衣去年秋雨中初着給之間如法打

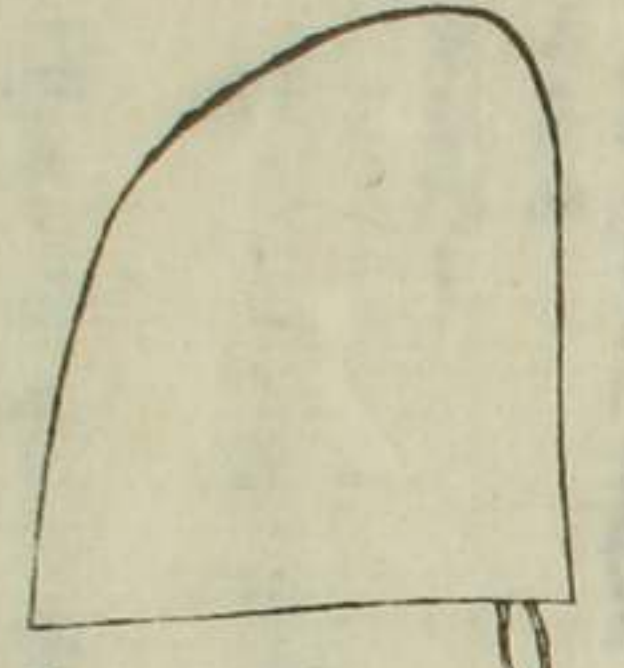
梨子^{ナシウチ}又東鑑^{弘長三年癸亥四月十四日記}曰二所御参詣^{中略}不諧^{不諧}垂翅^{垂翅}之

間打梨定有憚^云右打梨トあるハいづれもうちあ

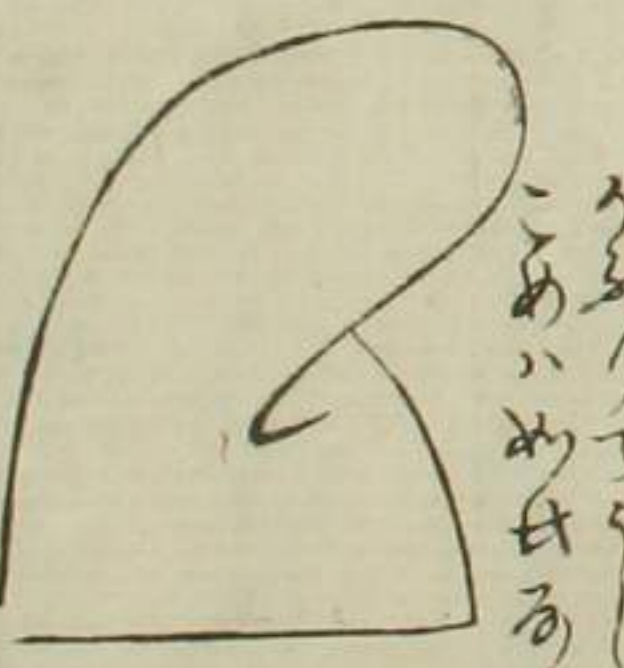
やの畧語めて装束のあはるるを云梨子打也

先と同義也形打あはるるハ表ハあはるる様

後も裏ハあはるるを黒漆めてぬりて縫ひて作也



竹ハリ本ドリニサス
あはるるの形也
あはるるぬり作也



うあはるるの形也
あはるるぬり作也

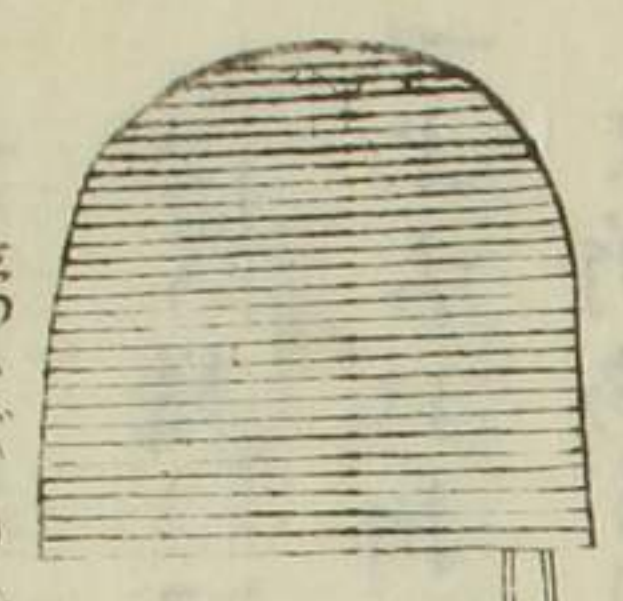
右の古法をあはるる人近年うちあはるる華ニあはるる
を作りたるを金箔あはるるみりあはるる打あはるる

古ハ妙摺ニ漆ス
 リテ作ルユヘエ
 オシヤハラカ也
 帯ニキルユヘモ
 メレハヨル也
 鳥心院衣文ト云
 一ヲ始メタマヒ
 シ以テ末エホシ
 依ニテ張ヌキニ
 レテモメタルハ
 ノ形ヲ木形ニテ
 出シテ是ヲハ
 ビト名付クリ木
 形ニテホテバイ
 カヤウニモサビ
 ノ形出末ルユハ
 サマノノサビヲ
 作リタルトリ

奈子ちどりうけはま
 也飛彈也惟久々あがきくる後二年合戦の餘り武者
 入りてあがりぬげとを折るりきくるはあがりまはち
 まきを付くる折はあがきあり 此後函書あり

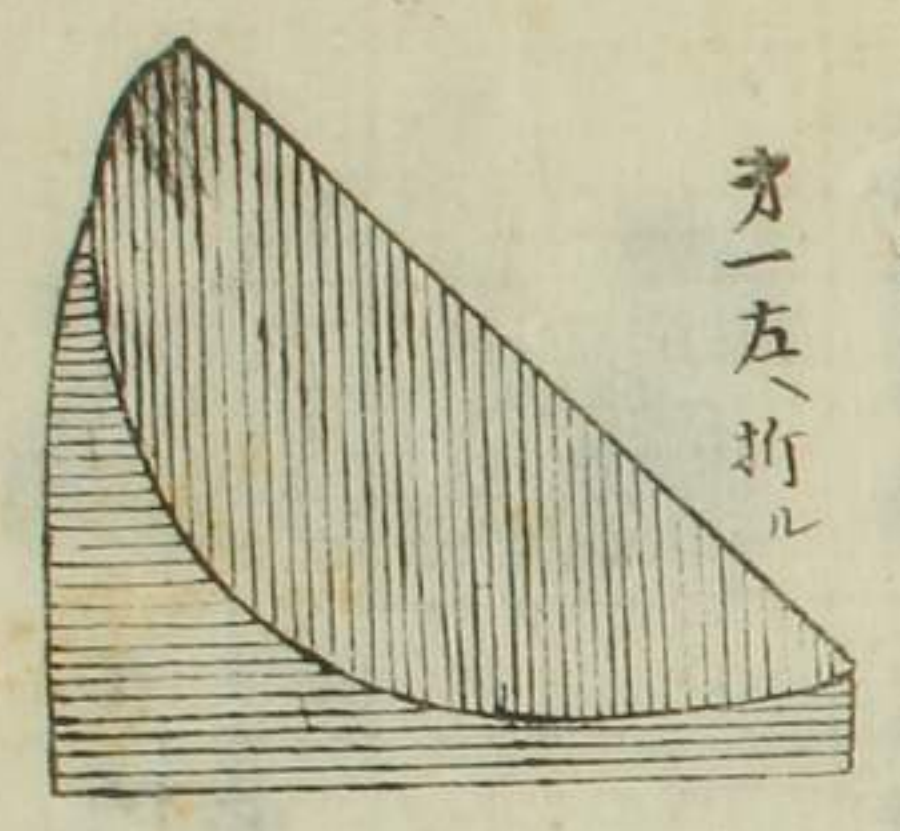
一横らびのあがりハ素襖きくる時うぶるあがり也今肘
 侍あがりとも古ハ士農工商とも常にうぶる平服
 あり侍のみうぶるあがりあがり侍あがりといひごとし
 又近代ハ納豆あがりといひあがりいり 今時田舎ノ寺
ヨリ檀那ノ納
 豆ヲ送ルニ薄キ板ヲ三角ニ折曲テ紙ヲハリテ底ニシテラレニ
 納豆ヲ盛也其納豆ノ入物ニ似タル故納豆烏帽子ト云ナリ
 一も古ハやううあがりともあがりいり 此横らびのあがり

衾きを作らるる也まきま 即ち也 此もいねあがり
 内也今ハこそくぬりくくわまきま 切を 一とく物
 二とく一とくあがりぬ物乃極まありま

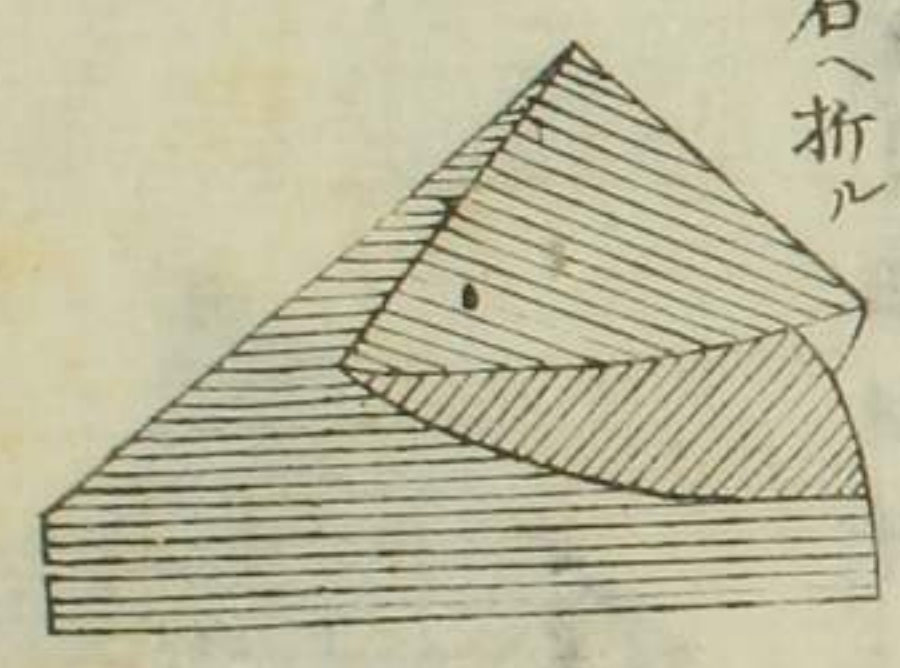


横らびのあがり

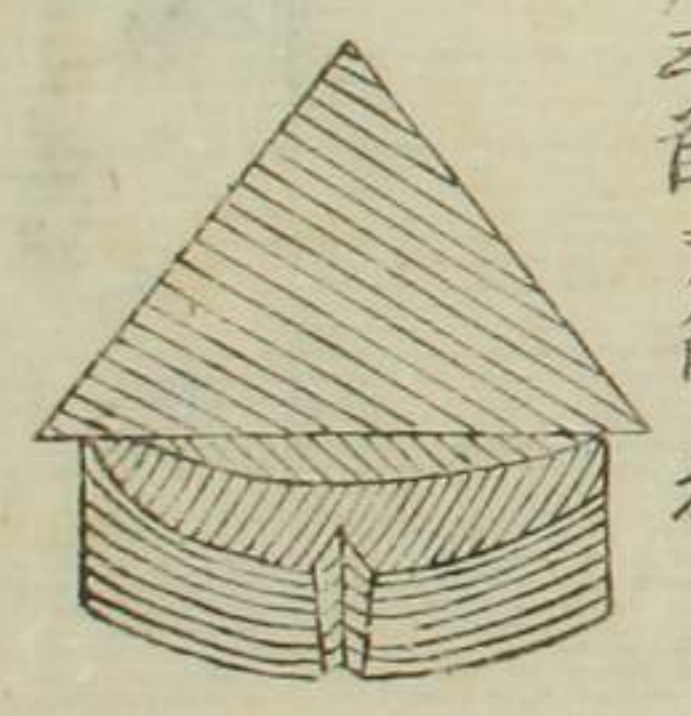
横らびのあがりハ折也立あがり也二折を折
 一とくあがり二とくあがり折やういり
 志極折してあがり折やうあり左のこ



才一左折ル



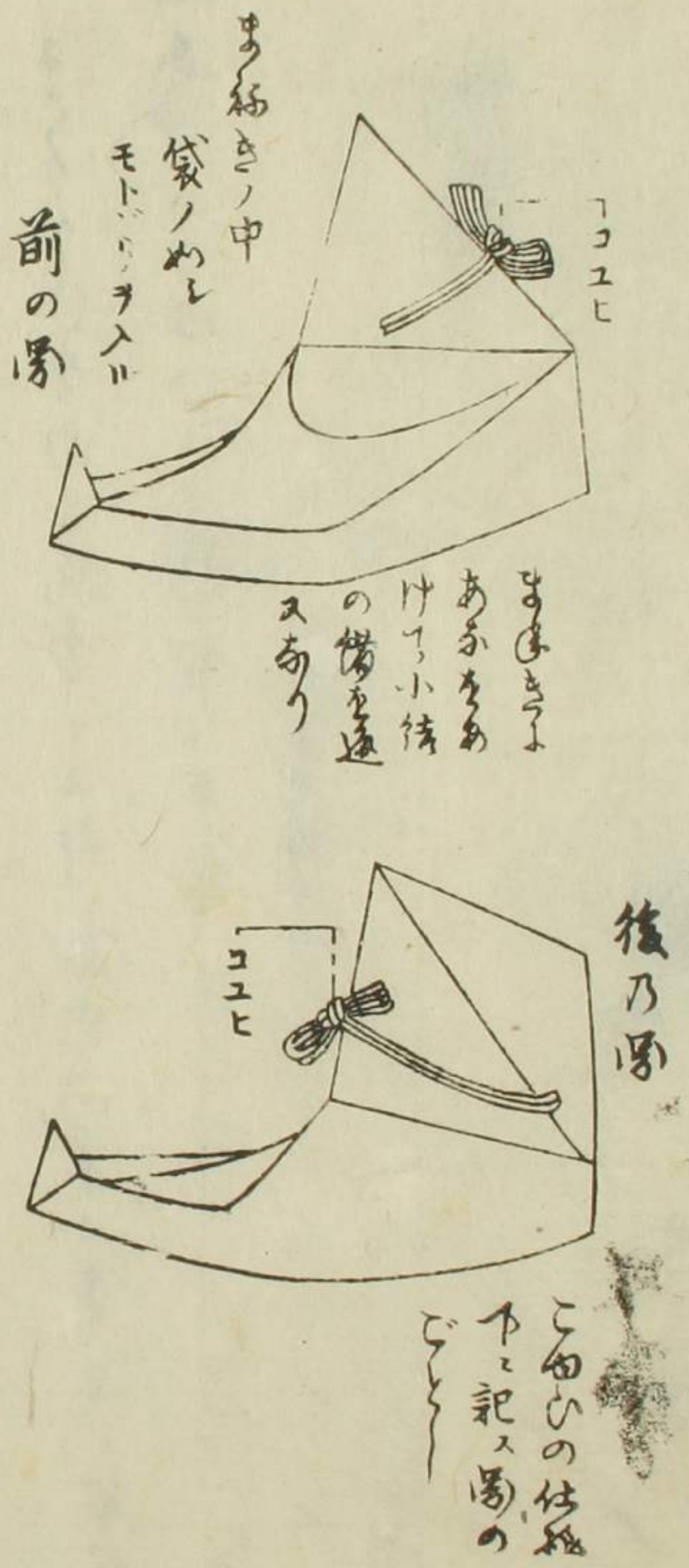
才二右折ル



才三前ヲ角ニ折ル

古代のしゆひの袋

こ布ひハ緒ニ着きしゆひ也



古の人ハ月代をさすありぬ髪をさすもどぎまをいふまの甲は上げて紐緒の平
 けい長く来りしゆひ也ん髪はゆひあり五回一のみまの袋ありあつ甲入り
 まゆ結き上ハこ布ひありまゆ結き上ハこ布ひありまゆ結き上ハこ布ひありまゆ結き上ハこ布ひあり
 まゆ結き上ハこ布ひありまゆ結き上ハこ布ひありまゆ結き上ハこ布ひありまゆ結き上ハこ布ひあり

一 小緒ハ組緒ニ筋をぬり結也色ハ何色とも不定又紙檢

て小緒すも布衣記ハ尺えりりせハ少行依を正す付乃事あり

一 式正の時ハてしゆひけしゆひの業ハこ布ひ也さねぞ小緒す付ハてしゆひけしゆひの時ハこ布ひをさすせざるあり是古よりりの法あり

一 こ布ひの志緒ハ緒を尺計ニ筋をぬりてまゆ結き上ハこ布ひハてしゆひけしゆひの時ハこ布ひをさすせざるあり是古よりりの法あり
 一 ちすむ結ひハてしゆひの時ハこ布ひをさすせざるあり是古よりりの法あり
 一 ちすむ結ひハてしゆひの時ハこ布ひをさすせざるあり是古よりりの法あり
 一 ちすむ結ひハてしゆひの時ハこ布ひをさすせざるあり是古よりりの法あり

乃左へあし緒の湯ハ右へあし也



右方ハ
エホレノ後
引出スレ

左ノ方ハエホレノ前
引出スレ

モトバシリハマ子キノ中へ入り

あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り
あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り
あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り
あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り

伊勢下徳入道宗五の記
あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り
あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り
あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り
あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り

上ノカケ長
五尺五寸許
五分厚五厘
金サレ両面同シ
白黒一寸マタ
ラハ両端黒
ヒヤウモレ五
分マタラ白赤青
両端青
青トハ花田色
ノコキ色ナルヘ
ニ
表ト

あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り
あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り
あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り
あし緒ハ右ノ方ハエホレノ前ハ左ノ方ハエホレノ後ハ引出スレトモトバシリハマ子キノ中へ入り

エホレニスミヌ
リシブヲ引テ
アレハソレハ
車ノ時ニ服者ノ
スルヲナリ野
殿ノ答書ニ見
タリ

大層巻廿二上
仲素服ノ条云
鳥帽子者注云改
仕年人極実ガバ
シ或尋常物通用
之
今川了後大双依
ニ引目ノ大小人
ニテ夕々へさ振
う赤ノの色ハ
ウ不トマモク
〜ハハハハハハ
〜ハハハハハハ
〜ハハハハハハ
〜ハハハハハハ

ありおきうー
はこへらうま
ありおきうま
たぬりうま
うのい色うま
〜ハハハハハハ
〜ハハハハハハ
〜ハハハハハハ
〜ハハハハハハ

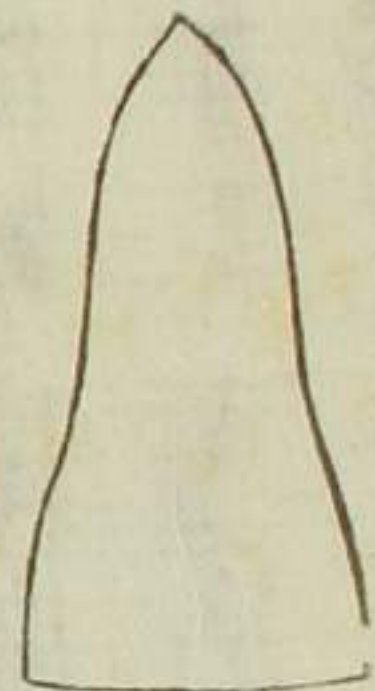
永仁六年八月五
日御幸都類云殿
上人之中頭弁一
人細馬帽子其外
三ノ手札又云新
院脱着之後初御
幸時御公御廿一
人之中七人引立
馬帽子十一人細
馬帽子一人手札

くうきあぬの色より〜るをいふあ〜るあぬ色ぬりといふ
事を畧してあぶぬりといふある〜後三年合戦の給よ
のきあぶ色の細馬帽子を着てゐる武將一人繪
がきつり黒〜ハ是り〜るあ〜の色あれども〜
ハのきあぶ色あ〜ぬ〜色あ〜もあ〜り〜る〜
一むらゝの色ハあ〜あり職人ヲ款合の歌あ〜折
あ〜の折也〜
せんあぬ世ぬあぬのやち屋子のあ〜の〜あ〜ハありまを
とあり判方初〜左あ〜屋あ〜るむこと〜
あ〜すあ〜りのむ〜思ひよ〜あ〜む〜
〜色ハあ〜り〜あ〜む〜あ〜む〜あ〜む〜あ〜む〜

くろ〜色ハあ〜り
一公方極空四折
軍ニリ御馬同〜の事諸書常用抄云公方極御風
折ハ左〜折る平人ハ右〜折る額公折ハ左を〜右を
高〜する也平人ハ左〜也左一折〜ハ是左折トス物ナリ右一折ハ
二部ス右ヲ高クト云ハ右眉ナリ左ヲ高クト云ハ
左眉也左眉右眉ノ事モ之前ニ記ス

一細馬帽子ハ武官のう〜るあ〜也〜
〜也〜
世の条々看督長走下部調度懸舎人等細馬帽子〜
〜由ええ〜後三年合戦の給よ細馬帽子〜
者多〜義家朝目も細馬帽子〜

薩戒記應永世二
 年九月十日 上皇
 御幸東山泉涌寺
 布衣隨身一人 細
 烏帽子常雜色立
 烏帽子也
 園大曆貞和四年
 十一月廿八日
 條院御細烏帽子
 白襖御狩衣志宮
 大夫引立烏帽子
 園前宰相細烏帽
 子大官宰相細烏
 帽子別當平礼云



布衣隨身



是皆細工ホシ
着タル形ナリ

右後三年合戦、繪ニ見タリ一リナキモアリ又一リヌリモアリ長絹
 ノ直垂ニ細工ホシ着タルモアリ 鎧ニ細工ホシ着タルモ有
ハナキモアリモアリ

一 陣の時、下はかぶる、能く見守る、事あり、
 武者の袖、伏し、相引立、あはれ、
 形をあらう、事あり、
 是は、
 是は、
 是は、



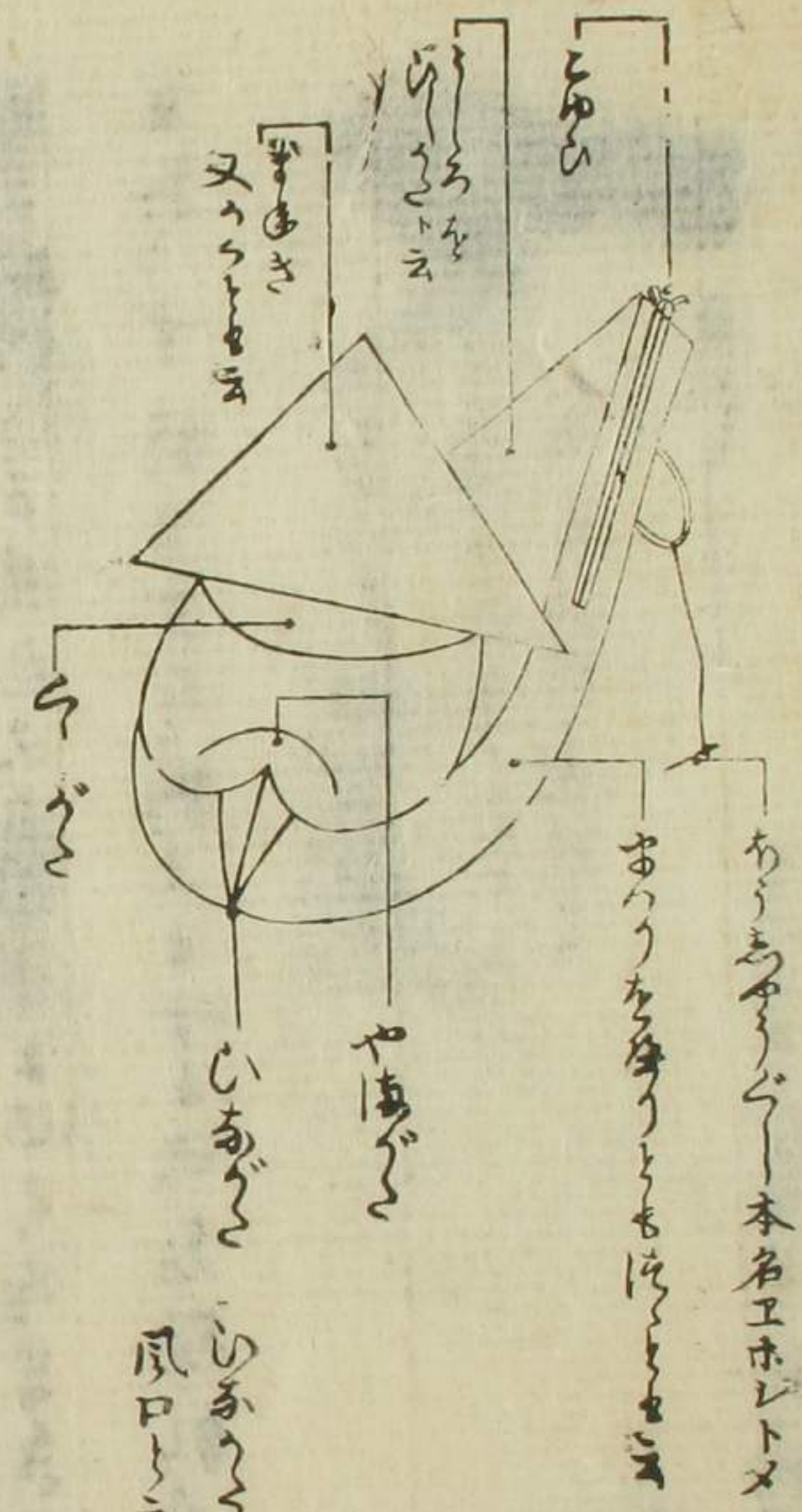
是引立工ホシ也

工ホシノヌゲ落タル風ナリ

飛彈守惟久カエカキ
後三年合戦ノ繪ニ見タリ

是引立工ホシ也

一横きびの折多目一の名所



あしをなすともはくとも
あしをなすともはくとも
あしをなすともはくとも
あしをなすともはくとも
あしをなすともはくとも
あしをなすともはくとも
あしをなすともはくとも
あしをなすともはくとも
あしをなすともはくとも
あしをなすともはくとも

一引入型意同...云ハあわ...折多目...
てもまあわ...折多目...
あまのを云也...折多目...
あまのを云也...折多目...

あまのを云也
あまのを云也
あまのを云也

あまのを云也...折多目...
あまのを云也...折多目...
あまのを云也...折多目...
あまのを云也...折多目...
あまのを云也...折多目...
あまのを云也...折多目...
あまのを云也...折多目...
あまのを云也...折多目...
あまのを云也...折多目...
あまのを云也...折多目...

貞丈雜記卷之三

